

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

三原市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和5年4月18日(火)

(2) 調査対象 公立小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

①児童生徒に対する調査

○教科学力の調査(「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に構成)

【小学校】

・国語、算数

【中学校】

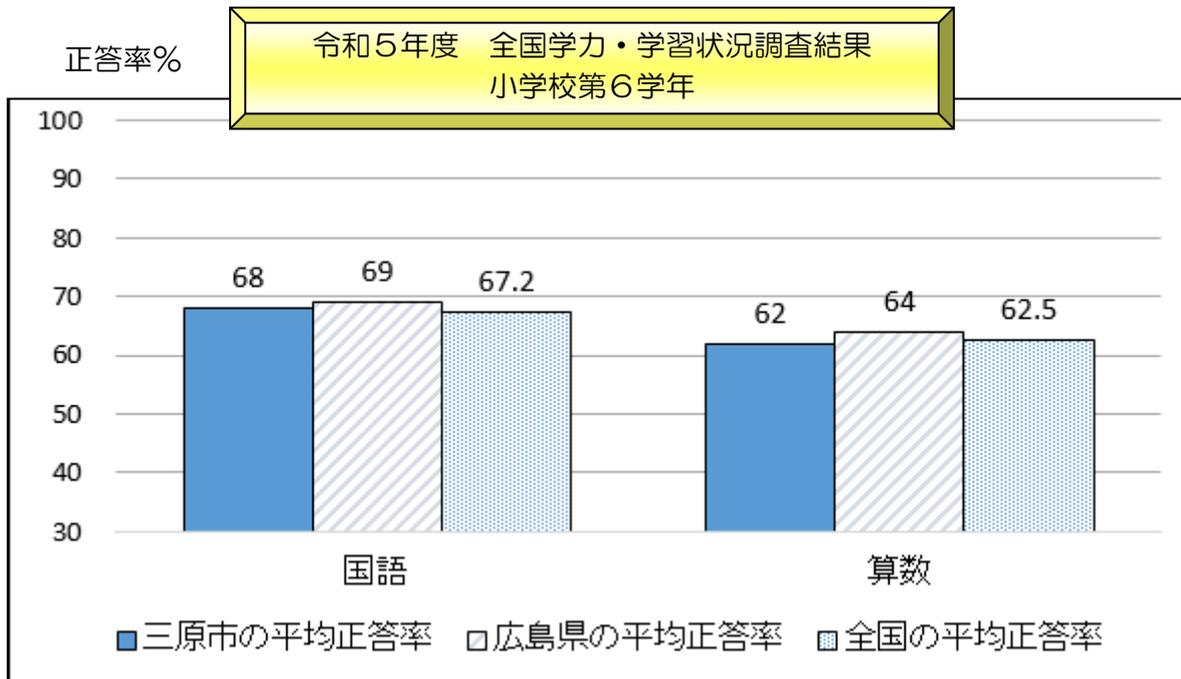
・国語、数学、英語

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する調査

○指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 三原市の調査結果



【国語】

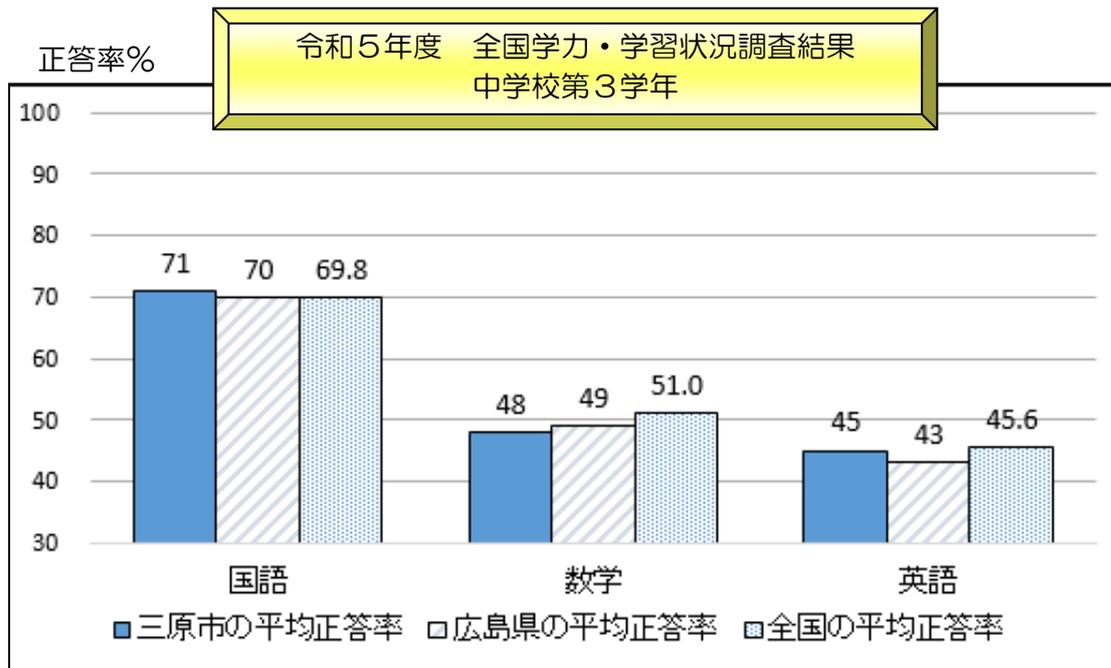
三原市の平均正答率は、全国平均より0.8%高く、県平均より1%低い。昨年度課題であった記述式問題について、3問中2問が県平均を下回り今年度も課題は継続しているが、県平均との差は縮まっている。今年度初めて出題された、「情報の扱い方に関する事項」では県平均を1.9ポイント下回った。文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かすことに課題がある。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、情報と情報を関係づけて考えさせる場を授業で設定すること。具体的には、目的に応じて必要だと判断した複数の語句を明示することで情報を整理できるよう指導する。その際、考えをより明確にしたり、思考をまとめたりすることができるよう、明示した語句と語句の関係を説明する場を設定する。2点目は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の様々な言語活動で、文の種類とその特徴を意識させる場を設定すること。例えば、文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、経験を基に材料を集めたり、何をどのように書くかを考えたりできるように指導していく。

【算数】

三原市の平均正答率は、全国平均より0.5%、県平均より2%低い。特に、「数と計算」、「変化と関数」においては県平均より2.6%~2.8%低く、課題が大きい。一方、昨年度、最も課題が大きかった「データの活用」については、県平均を0.3%上回り、改善が見られた。また、4問の記述式問題のうち、2問が県平均以下であった。求め方や理由等を説明することに継続して課題がある。

改善策として、以下の3点を特に意識して授業改善を進める。1点目は、求め方や理由等を説明することの充実を図ること。具体的には、自分で式や言葉を用いて記述した後、お互いの記述について説明し合う活動を設定する。その際、全体で共有した望ましい記述をもとに、再度自分で記述したり、ペアで話し合ったりして、全員が求め方を説明できるようにする。2点目は、基礎的・基本的な内容について児童がつかずいているのか把握し、児童自身もなぜ間違えたのか理解する場を設定すること。ドリル学習の時間等で、つまずきの多い計算問題に取り組ませ、目標時間の設定、間違えた問題の直し、途中式を書くことなどを徹底する。3点目は、問題を解決するために必要な情報を主体的に見いだすことができるようにすること。具体的には、導入で既習との違いを考えたり、友達の困り感を共有したりする。終末には、導入問題で見いだした見方・考え方を使って自分で解決できるか、確かめる時間を設定する。



【国語】

三原市の平均正答率は、全国平均より1.2%、県平均より1%高い。「書くこと」「読むこと」については、県平均を0.1ポイント上回っている。特に、「読むこと」については、昨年度の本市の調査結果と比較しても改善が見られる。「話すこと・聞くこと」については、県平均より0.9ポイント下回っており、課題が見られる。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、事前に質問内容を検討したり、効果的な質問について考えたりする場面を授業で設定すること。具体的には、インタビューの目的を念頭に置き、実際にやりとりする場面を具体的にイメージしながらインタビューメモの内容を検討する場面を設定する。また、インタビュー例を基に、質問の意図を確かめたり、質問を受けた話し手の様子や回答に着目したりするなどして、効果的な質問について考えさせる。2点目は、文章の構造を捉え、要旨をまとめる学習の場面を授業で設定すること。文章のキーワードやキーセンテンスに注目することはできているが、細かな意味の違いを十分に理解していなかったり、繰り返し出てくる言葉の印象に引っ張られたりする傾向がある。そのため、段落ごとの内容や段落相互の関係を捉えられるよう、大きな意味のまとめごと小見出しを付けながら、情報を整理する場面を設定する。

【数学】

三原市の平均正答率は、全国平均より3%、県平均より1%低い。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全て領域において県平均を下回っている。特に「図形」については、県平均から2.5ポイント下回っており、課題が大きい。基礎的・基本的な知識及び技能が身につけていないこと、記述式で事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

改善策として、次の2点を意識して授業改善を進める。1点目は、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図ること。基本的な計算問題や、用語の意味を正しく理解させるために、小テストや、単元テストなどを繰り返し実施し、できていない問題については学び直しの時間を設定する。また、毎時間、振り返りの時間を確実に設定し、本時で学習した内容を振り返りシートなどに自分の言葉でまとめさせ、いつでも確認できるようにする。

2点目は図形やデータの性質を論理的に考察する活動の充実を図ること。ある事柄が成り立つことを考察する場面では、ステップチャート等で構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導する。また、完成した証明を振り返ったり、条件を変えて考えたり、他者の説明を聞いて、どのように考えたかをお互いに説明させたりする。

【英語】

三原市の平均正答率は、全国平均より 0.6%低く、県平均より 2%高い。「聞くこと」「書くこと」については県平均を上回っている。特に、「書くこと」については県平均を 3.6 ポイント上回っており、H31 年度に実施した本市の調査結果と比較しても成果が見られた。「読むこと」については県平均を 0.9 ポイント下回っている。

改善策として、以下の 2 点を特に意識して授業改善を進める。1 点目は、短い文章の概要を捉える場面を設定すること。具体的には、短い説明や文章などを読んで時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動を設定する。また、短い文章を読む際に、接続詞に注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英語でまとめたりする活動も設定する。2 点目は、情報を正確に読み取る場面を設定すること。具体的には、主語や動詞などの意味のまとまりを捉えながら読むことを指導する。また、ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表している図やグラフを選択する活動や無生物が主語になる英文を使って事実を伝える活動等にも取り組ませる。